

月刊 都響
October 2023

ヤング
シスター



気を付けてね！ ホールでの過ごしかた

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話ししないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2023
10/14

Subscription Concert 第 983 回定期演奏会 C シリーズ

会場：東京芸術劇場コンサートホール

指揮／大野和士

ヴァイオリン／イザベル・ファウスト

♪ リンドベルイ：アブセンスーベートーヴェン生誕 250 年記念作品 —
(2020) [日本初演] (約 13 分)

♪ シューマン：ヴァイオリン協奏曲 二短調 (約 32 分)

♪ ベートーヴェン：交響曲第 7 番 イ長調 op.92 (約 38 分)

東京都交響楽団

【デプリースト没後 10 年記念】

アメリカの指揮者ジェームズ・デプリーストが亡くなって今年で10年となります。今日のコンサートは、デプリーストが都響で最後に演奏したシューマンの作品を、イザベル・ファウストのヴァイオリン独奏、大野和士の指揮でお届けします。

ジェームズ・デプリースト James DePREIST

初めて都響を指揮したのは1994年。2005年から08年に常任指揮者を務めました。

叔母は有名な歌手アンダーソン。少年時代、一緒に買い物に行ったり家でお皿を洗っている叔母さんがラジオを通して歌っている有名な歌手と同じ人だとは思えなかったそうです。また高校の時、先生がオーケストラを指揮するのを見て、先生の音楽に対する情熱に感銘を受け、このことも音楽の道に進むようになったきっかけの一つでした。都響とは長年にわたり素晴らしい演奏会を行い、楽員と一緒に学校を訪れる「マエストロ・ピジット」や、都響と子供たちの合同演奏会「ジョイントコンサート」で指揮をするなど、色々な方面で尽力しました。

大の相撲観戦好き。ブームになった音楽コミック「のだめカンタービレ」にも登場しました。心温かく、叡智にあふれ、チャーミングなマエストロでした。



リンドベルイ：アブセンスーベートーヴェン生誕 250 年記念作品一 (2020)

もしベートーヴェンに会えるとしたら、みなさんはどんなお話をしてみたいですか？本日最初に演奏する曲は、現在65歳のフィンランドの作曲家マグヌス・リンドベルイが、ベートーヴェンとの会話をイメージして2020年に作った《アブセンス》という作品です。「アブセンス」とは、ベートーヴェンのピアノソナタ第26番「告別」の第2楽章のタイトルです。日本語では「不在」と訳されます。自分の大切な人がそばにいない寂しい気持ちを、ベートーヴェンが音楽で表現した楽章です。

リンドベルイは、ベートーヴェンの「告別」ソナタ、交響曲第2番、第9番の音型や和音を少しずつ抜き出して、そこに自分の思う響きを加え、大作曲家との音楽による対話をこころみました。過去と現在の作曲家どうしの会話がオーケストラでどのようになされるのか、じっくりと耳を傾けてみましょう。

シューマン：ヴァイオリン協奏曲 二短調

有名な作曲家の作品なら、そのすべてが「傑作」として知られ、演奏されてきたわけではありません。ドイツの作曲家ロベルト・シューマン(1810~1856)が晩年に作曲したヴァイオリン協奏曲は、長い間その楽譜が人々の目に触れられることはありませんでした。

作曲当時、披露されるはずだったコンサートの曲目が変更になり、なかなか演奏されるチャンスが巡って来ないまま、完成から4ヶ月後の1854年2月、シューマンは精神の病からライン川に身を投げ、その後回復することなく1856年に亡くなりました。妻でピアニストだったクララ、この曲を初演するはずだったヴァイオリニストのヨアヒム、そしてシューマンを恩師として慕ったブラームスは、シューマン最後のオーケストラ曲となった本作をあまり良い出来とは考えませんでした。そのためシューマン作品全集からこの曲は外され、出版されませんでした。今年では評価

されていますが、ベルリンの図書館に保管されていた楽譜が初めて演奏されたのは、1937年になってからのこと。作品は、3つの楽章で成り立っています。**第2楽章**には、シューマンの最後のピアノ曲《主題と変奏》のテーマにも使用された、「天使の歌」と呼ばれる美しいメロディーが登場します。

ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 op.92

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)がこの交響曲第7番を書き始めたのは1811年、40歳の時です。交響曲第5番「運命」・第6番「田園」から3年ほどの月日が流れ、久しぶりに手がけた交響曲でした。この間、ベートーヴェンの暮らすウィーンにはフランスのナポレオンが率いる軍隊が攻め込み、戦争が起こっていました。不安が広がる中で、ベートーヴェンは落ち着いて交響曲を作曲する気持ちになれなかったのかもしれませんが。

やがてフランス軍がウィーンから撤退し、英国軍がナポレオンに勝利したという知らせも入ってくると、ウィーンの人々の心は晴れやかに湧き立ちました。1913年12月には、戦争で傷を負った兵士のためのチャリティーコンサートが開かれることになりました。そこで初演されたのが、この交響曲第7番です。エネルギーでリズムカルなベートーヴェンの新作に、聴衆は熱狂的な拍手を送ったそうです。

第1楽章は上行する音階が印象的な、ゆったりとした序奏で開始します。やがてフルートとオーボエが提示する軽快なリズムに導かれて音楽は明るくなり、弾むようなリズムとともに展開していきます。**第2楽章**は一転して重い足取りの行進のように、同じリズムが繰り返し響きます。**第3楽章**は再び活気を取り戻し、素早いテンポでぐんぐん進みます。中間部では民謡風のほのぼのとしたメロディーが登場し、華やかに響きわたります。**第4楽章**はタンタカタン！という鮮烈なリズムで幕を開け、後拍のアクセントによって音楽が前へ前へと運ばれていく力強いフィナーレとなります。

文/飯田有抄(クラシック音楽ファシリテーター)

指揮 大野和士 Kazushi ONO, Conductor



©Herbie Yamaguchi

都響およびブリュッセル・フィルハーモニックの音楽監督、新国立劇場オペラ芸術監督を務めている。トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。これまでに、ザグレブ・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、モネ劇場(ベルギー王立歌劇場)音楽監督、フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者等を歴任。フランス批評家大賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。9年間率いたリヨン歌劇場は、インターナショナル・オペラ・アワードで「最優秀オペラハウス 2017」を獲得。自身は2017年6月、フランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受章、リヨン市からリヨン市特別メダルを授与された。来年3月には新国立劇場でオペラ『トリスタンとイゾルデ』(都響がピットに入る)が予定されている。

ヴァイオリン イザベル・ファウスト Isabelle FAUST, Violin

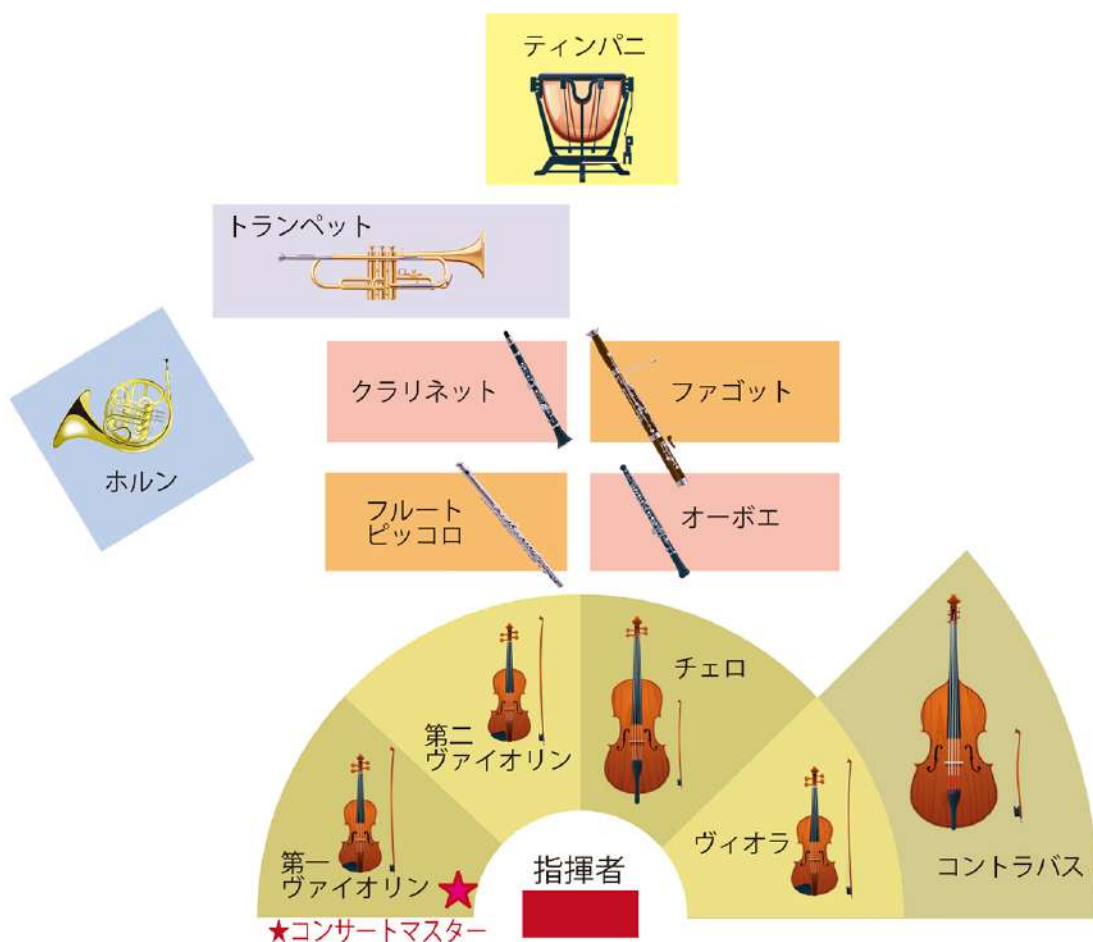


©Felix Broede

音楽の歴史的文脈とそれにふさわしい楽器、そして現代の知識に基づいた忠実な解釈で世界中の聴衆を魅了し、幅広い作品をレパートリーとしている。レオポルト・モーツァルト国際ヴァイオリン・コンクールおよびパガニーニ国際コンクールで優勝し、一躍世界的に注目された。これまでに、ベルリン・フィルをはじめとする世界の主要オーケストラと、またネルソンスやアントニーニ、ロト、ガーディナーなどの指揮者と共演している。通常のレパートリーに加え、古楽器での演奏、俳優・歌手との《兵士の物語》、現代音楽などにも精力的に取り組んでおり、CDも多数リリースしている。

オーケストラ配置図（10月14日 第983回定期演奏会Cシリーズ）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。
どの曲にどの楽器が使われているかにも注目してみてくださいね。



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

上記の弦楽器の並びは「ベートーヴェン交響曲第7番」のもので、「アブセンス」と「ヴァイオリン協奏曲」演奏時、第二ヴァイオリンとヴィオラの位置が入れ替わります。

東京都交響楽団



東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。

都響（ときょう）という愛称で親しま
れています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術
劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、
交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』など
ゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、
病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。



©Rikimaru Hotta

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、
「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。